

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

弘前さくらまつりにぎわい創出事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

弘前市

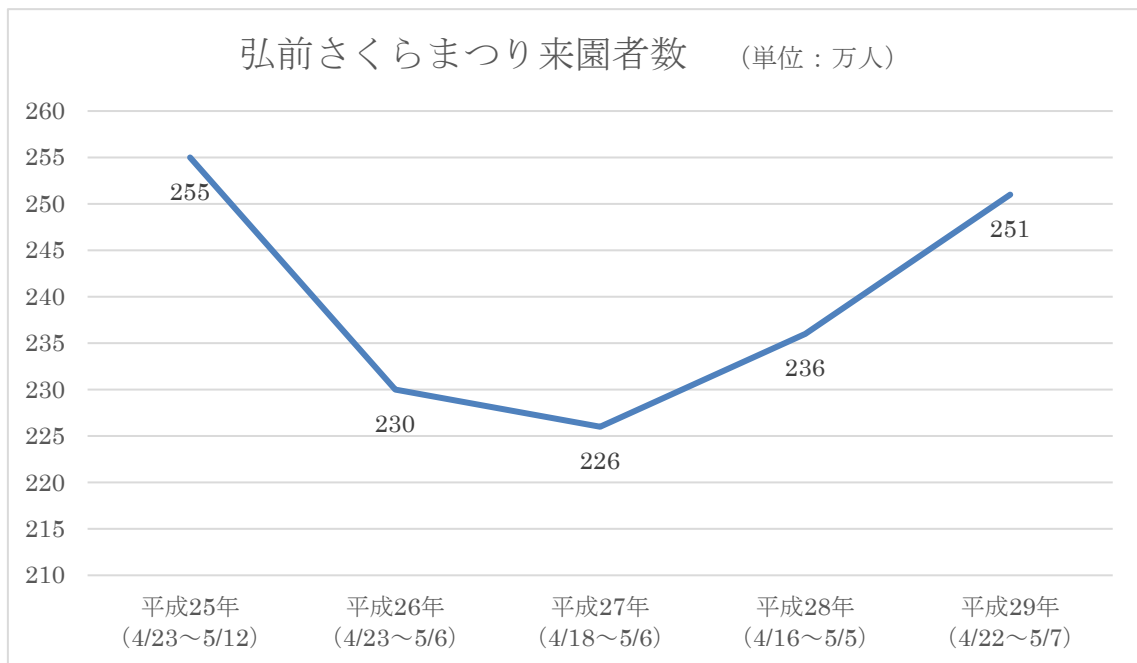
3 地域再生計画の区域

弘前市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

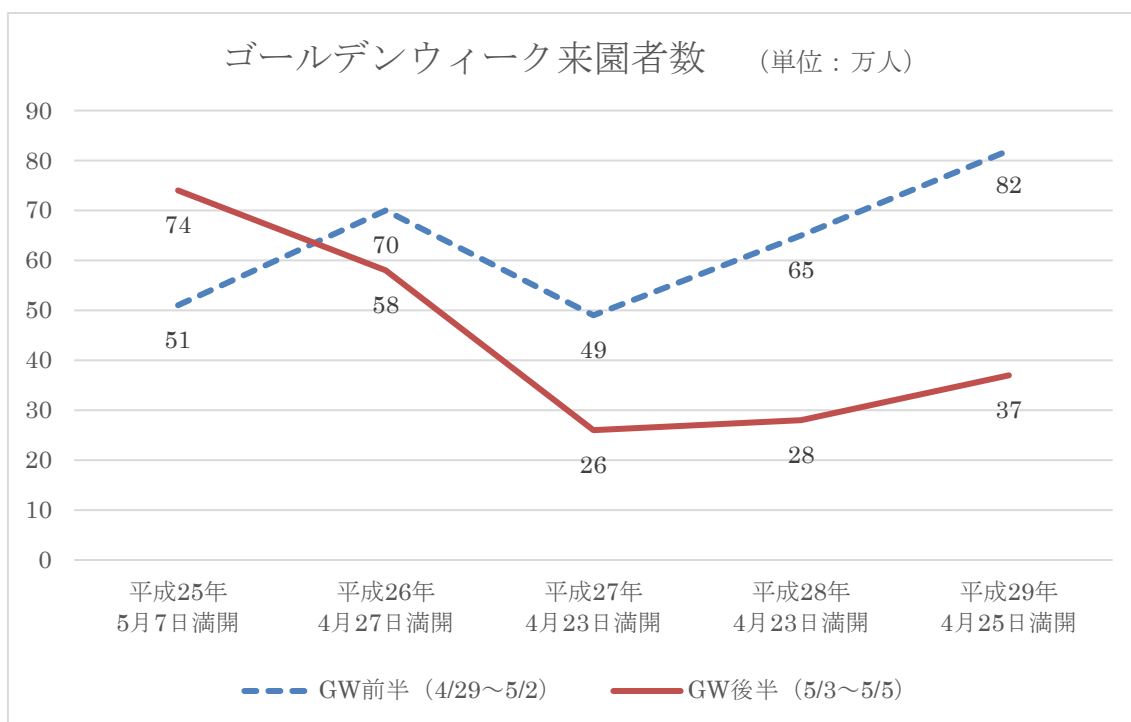
弘前市は青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置し、春には弘前公園で開催される「弘前さくらまつり」、夏には「弘前ねぷたまつり」、秋には「弘前城菊と紅葉まつり」、そして冬には「弘前城雪燈籠まつり」があり、多くの観光客で賑わう観光都市である。そのうち「弘前さくらまつり」は、全国はもとより世界中から 200 万人を超える来園者が訪れるため特に重要な観光資源として位置づけられている。



4-2 地域の課題

弘前公園のさくらの特長は、日本最長寿のソメイヨシノをはじめ、樹齢100年を超えるソメイヨシノが400本以上あることに加え、それらの老木が弘前方式と呼ばれる独自の管理方法により、ボリュームのある花を咲かせる場所にあり、お城とさくらが見事に融合した景観を生み出している。また、花の見頃がゴールデンウィークと重なって、日本有数のさくらまつりの名所として毎年多くの観光客にその魅力を伝えてきた。

しかしながら、近年の地球温暖化傾向により、さくらの開花時期が早まってゴールデンウィーク後半には園内の約7割を占めるソメイヨシノが散っている年が多くなってきており、宿泊のキャンセルが見られるなど、ゴールデンウィーク後半の集客が課題となっている。



4-3 目標

本事業では、ソメイヨシノが散った後に咲く遅咲きの品種を鉢植えにて園内に展示することで、新たなさくらの鑑賞方法を提案し、さくらまつり期間中はいつでもさくらが楽しめる場所を提供することにより観光客を増加させることを目標とする。

【数値目標】

事業	弘前さくらまつりにぎわい創出事業	年月

	まつり期間中の有料入園者数（本丸・北の郭）	4～5月の宿泊者数	
申請時	227,104人	99,425人	H29.5
初年度	230,000人	101,000人	H30.5
2年目	240,000人	103,000人	H31.5
3年目	250,000人	105,000人	H32.5

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

弘前市の観光業振興のため、ソメイヨシノより遅咲きの品種を数品種200本程度大型コンテナで栽培し、さくらまつり期間中に見ごろとなるものを展示するとともに、弘前公園で剪定されたさくらの枝を活用し、羽田空港内ラウンジ（ダイヤモンドプレミアムラウンジ・サクララウンジ）に桜の演出を行い、「弘前さくらまつり」への誘客を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

(1) 事業名：弘前さくらまつりにぎわい創出事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

弘前市は青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置し、春には、弘前公園で開催される「弘前さくらまつり」、夏には「弘前ねぷたまつり」、秋には「弘前城菊と紅葉まつり」、そして冬には「弘前城雪燈籠まつり」があり、多くの観光客で賑わう観光都市である。そのうち「弘前さくらまつり」は、全国はもとより世界中から200万人を超える来園者が訪れるため特に重要な観光資源として位置づけられている。

弘前公園のさくらの特長は、日本最長寿のソメイヨシノをはじめ、樹齢100年を超えるソメイヨシノが400本以上あることに加え、それらの老木が弘前方式と呼ばれる独自の管理方法により、ボリュームのある花を咲かせるところにあり、お城とさくらが見事に融合した景観を生み出している。また、花の見頃がゴールデンウィークと重なって、

日本有数のさくらまつりの名所として毎年多くの観光客にその魅力を伝えてきた。

しかしながら、近年の地球温暖化傾向により、さくらの開花時期が早まってゴールデンウィーク後半には園内の約7割を占めるソメイヨシノが散っている年が多くなってきており、宿泊のキャンセルが見られるなど、ゴールデンウィーク後半の集客が課題となっている。

本事業では、ソメイヨシノが散った後に咲く遅咲きの品種を鉢植えにて園内に展示することで、新たなサクラの鑑賞方法を提案し、さくらまつり期間中はいつでも桜が楽しめる場所を提供することにより観光客を増加させることを目標とする。

(事業の内容)

市が、ソメイヨシノより遅咲きの品種を数品種 200 本程度大型コンテナで栽培し、さくらまつり期間中に見ごろとなるものを展示する。

展示場所は弘前公園内で観光客が多数訪れる追手門、東門、北門の各門のほか、二の丸一帯、下乗橋付近、本丸北の郭、中央高校口、弘前城植物園内などとする。

(各年度の事業内容)

初年度) 大型コンテナ制作及び桜樹購入、鉢植え

2年目) 成長が良く花つきの良いコンテナを見本展示、樹木育成期間、鉢カバー作成

3年目) 本格展示

(4) 地方版総合戦略における位置付け

当市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「基本目標①安定した雇用創出と地域産業のイノベーション」のなかで、外国人観光客の誘客促進等による交流人口と観光消費額の拡大（外国人宿泊者数現状 6,208 人→12,000 人、観光消費額現状 18,607 百万円→23,000 百万円）を掲げており、本事業は、この目標達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	弘前さくらまつりにぎわい創出事業		年月
	まつり期間中の有料入園者数（本丸・北の郭）	4～5月の宿泊者数	

申請時	227,104人	99,425人	H29.5
初年度	230,000人	101,000人	H30.5
2年目	240,000人	103,000人	H31.5
3年目	250,000人	105,000人	H32.5

(6) 事業費 (単位：千円)

弘前さくらまつりにぎわい創出事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	2,268	2,600	200	5,068
区分	需用費	0	440	0	440
	委託料	2,268	2,160	0	4,428
	原材料費	0	0	200	200

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H29	H30	H31	計
中村石材工業株式会社	100	—	—	100
計	100	—	—	100

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

外部組織 (弘前市総合計画審議会) による個々の事業について PDCA サイクルによる検証を実施する。

【外部組織の参画者】

産：つがる弘前農業協働組合、弘前商工会議所、弘前観光コンベンション協会

学：弘前大学、弘前学院大学

金：青森銀行、みちのく銀行

労：弘前大学

言：アップルウェーブ株式会社

その他：弘前市社会教育協議会、弘前市社会福祉協議会

(評価の時期・内容)

毎年度7月をめどに実施。事業の実施結果（成果・課題）及び KPI の達成状況の評価を、定性・定量の両面から実施する。

(公表の方法)

検証後速やかに市ホームページで公表する。

(9) 事業期間 平成 29 年 11 月～ 平成 32 年 3 月 31 日まで

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

弘前さくらプロモーション事業

事業概要：日本航空株式会社と連携し、弘前公園で剪定されたさくらの枝を活用し、羽田空港内ラウンジ（ダイヤモンドプレミアムラウンジ・サクララウンジ）に桜の演出を行い、「弘前さくらまつり」への誘客を図る。

事業主体：弘前市

事業期間：平成 27 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

外部組織（弘前市総合計画審議会）による個々の事業について PDCA サイクルによる検証を実施する。

【外部組織の参画者】

産：つがる弘前農業協働組合、弘前商工会議所、弘前観光コンベンション協会

学：弘前大学、弘前学院大学

金：青森銀行、みちのく銀行

労：弘前大学

言：アップルウェーブ株式会社

その他：弘前市社会教育協議会、弘前市社会福祉協議会

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度7月をめどに実施。事業の実施結果（成果・課題）及び KPI の達成状況の評価を、定性・定量の両面から実施する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

検証後速やかに市ホームページで公表する。